

目次

- ・今井学長を理事長職務代行に選出 ..... 3
- ・歯科保存学講座教授就任 ..... 3
- ・教授就任挨拶 山本一世 ..... 3
- ・<sup>敬</sup>稗田豊治名誉学長に正五位 ..... 4
- ・佐川寛典名誉教授に名誉学長称号授与 ..... 4
- ・古跡養之眞前学長  
日本歯科医学会会長賞を受賞 ..... 5
- ・平成17年度6学年父兄会開催 ..... 5
- ・平成17年秋の叙勲・褒章受章者 ..... 5
- ・学位(博士)授与報告 ..... 5
- ・寄贈 ..... 5

- ・来年度予算一律10%削減へ ..... 5
- ・第37回大学祭 ..... 6
- ・平成17年度自衛消防訓練 ..... 6
- ・平成17年度教職員懇親旅行 ..... 7
- ・牧野学舎本館『登録有形文化財』へ ..... 12
- ・平成17年度教職員忘年慰労会 ..... 12
- <トピックス>
- ・大阪歯科学会第500回例会記念大会 ..... 12
- ・第1回人権講演会開催 ..... 14
- ・人事 ..... 15
- ・あとがき ..... 15



平成17年度 教職員懇親旅行・食事会／料亭「ちもと」にて（平成17年12月10日）

今井学長を理事長職務代行に選出

佐川寛典理事長の急病・入院により、決裁等の法人業務の遂行に支障が生じたため、急遽9月13日(火)臨時理事会が開催され、今井久夫学長・常務理事を理事長職務代行に選出した。

歯科保存学講座教授就任

平成17年10月1日付けで、歯科保存学講座講師の山本一世先生が、教授に就任された。

山本教授の略歴は以下の通りである。



歯科保存学講座教授

山本一世 (やまもと かずよ)

歯学博士

昭和36年生まれ, 44歳

<学歴>

- 昭和56年4月 大阪歯科大学入学
昭和62年3月 大阪歯科大学卒業
昭和62年4月 大阪歯科大学大学院歯学研究科博士課程入学
平成3年3月 大阪歯科大学大学院歯学研究科博士課程卒業
平成3年3月 歯学博士学位取得
平成4年9月 ドイツドルマーゲン市バイエル歯科研究所留学(1年間)

<職歴>

- 平成8年4月 大阪歯科大学助手(歯科保存学講座)
平成10年11月 大阪歯科大学講師(歯科保存学講座)
平成12年5月 大阪歯科大学大学院講師(歯科保存学)
平成17年10月 大阪歯科大学教授(歯科保存学講座)



教授就任挨拶

歯科保存学講座 山本 一世



平成17年10月1日付をもちまして、井上正義前教授の後任として歯科保存学講座を担当させていただくことになりました。若輩者ですが、大学のため、学生達のために精一杯頑張っていくつもりですので、どうぞよろしくお願い申し上げます。就任にあたりまして、以下に私の抱負を述べさせていただきます。



【教育に対する抱負】

現在、医学・歯学教育改革が世界的な流れであり、我が国におけるモデル・コア・カリキュラムの提示、さらに本学では統合型カリキュラムである「カリキュラム2000」の導入といったように、従来の学科別の教育から疾患別・領域別の教育へと転換がなされています。保存修復学は、う蝕をはじめとする歯の硬組織疾患の病因・病態を理解し、その臨床的対処法を習得することを教育目標として長い年月をかけて確立、整理されてきた学問であり、今後とも臨床系歯学として中核のひとつとなる科目であると考えております。

また、本年から共用試験が本格実施となりますが、共用試験そのものは臨床実習への参加資格の認定を目的とした総括的評価であるとしても、これまでに4回におよぶトライアルを経て、知識・技能・態度の3領域をバランスよく評価できるよう、かなり完成された評価システムになっているものと考えられます。そこで大阪歯科大学としての個性を尊重しつつ、まずは共用試験の合格を念頭に置いた講義・実習を行うことで、単に共用試験の合格だけでなく、その後の臨床実習を診療参加型の有意義なものにすることが可能になると考えます。

臨床実習においては、患者さんの存在そのものが問題解決型学習において最も重要とされる「事例」であり、診療に積極的に参加することが当然「問題解決型学習」を促進することになりますが、その手始めとして学生をできるだけ治療計画の立案に参加させるべき、



古跡養之眞前学長  
日本歯科医学会会長賞を受賞

日本歯科医学会は、12月2日、同学会最高の顕彰である平成17年度日本歯科医学会会長賞の受賞者を、本学前学長の古跡養之眞名誉教授に決定した。授賞式は12月16日に日本歯科医師会で行われる。

平成17年度 6学年父兄会開催

例年12月に実施している6学年父兄会は、今年度は歯科医師国家試験が2月11日・12日に実施されるため、日程を早め9月17日(土)午後1時より、楠葉学舎1号館1階第1大講義室において開催された。

当日は、今井久夫学長の挨拶、片尾秀信父兄会幹事長の挨拶に続き、小谷順一郎学年指導教授はじめ各担当教員から卒業を控えたこの時期の過ごし方、歯科医師国家試験対策、また来年度から必修となる臨床研修歯科医師制度について、きめの細かい説明がなされた。

その後、第2大講義室において学年指導教授を中心に各助言教員の先生方と父兄および学生も交え、熱心に懇談された。

なお、当日出席されたご父兄は約60名であった。

第6学年父兄会次第

- 1. 開 会 大学事務部長 上田 実
- 1. 挨 拶 学 長 今井 久夫
- 父兄会幹事長 片尾 秀信
- 学生部長 大東 道治
- 1. 説 明(1) 学年指導教授 小谷順一郎
  - ・進路説明、国試対策等
- 1. 説 明(2)
  - ・「学士試験の成績と歯科医師国家試験合格率の関係」 教務部長 川本 達雄
- 1. 説 明(3)
  - ・「大阪歯科大学附属病院臨床研修プログラムについて」
  - 臨床研修教育科病院助教授 紺井 拡隆
- 1. 父兄懇談会 各助言教員と面談

平成17年 秋の叙勲・褒章受章者

平成17年秋の叙勲・褒章者として大阪歯科大学関係の先生方が、以下の通り受章されました。

叙 勲

専門 22 回	山西 康友	和歌山県	瑞宝双光章
大学 9 回	神田 晋	京都府	瑞宝双光章
京城	井本 章	山口県	旭日双光章

学位(博士)授与報告

金 洛玄 乙第1469号 (平成17年12月27日)  
Analysis of eosinophilic round bodies formed after enamel matrix derivative injection into the backs of rats (ラット背部へのエナメルマトリックスデリバティブ注射後に形成されたエオジン好性の円形小体の分析)

寄 贈

下記の寄贈を受けましたので報告します。寄贈いただいた各位には心より感謝いたします。

・大阪歯科大学第13回卒業(登美栄会)

卒業40周年を記念して平成17年11月26日寄贈  
学術研究奨励基金として 500,000円也

来年度予算一律10%削減へ

11月2日(水)に開催された平成18年度予算説明会において、財政収支の健全化を図るため昨年および今年の前年度比5%削減に引き続き、来年度予算はさらに10%の削減が要請された。事務各課は、11月18日までに予算要求書を作成・提出し、12月初旬に予算折衝が行われる。

### 第37回大学祭

今年は『共鳴』というテーマのもとで、体育祭は牧野学舎で、また大学祭である「楠葉祭」は、今年も地域社会での開かれた大学として多彩な企画で行われた。

日 程

- ・ 体育祭：10月22日(土)
- ・ 楠葉祭：10月29日(土)・30日(日)

今年の体育祭は危ぶまれた雨が上がり、雲の合間に太陽がのぞく肌寒い天候ではあったが、本学学生・学年指導教授・助言教員・学友会関係者および歯科技工士専門学校、歯科衛生士専門学校の学生が多数参加し、国旗掲揚ならびに国歌斉唱のあと、大学祭大会長今井久夫学長の挨拶で開始された。

大会役員挨拶や歯学体関係の表彰式のあと、クラブ対抗リレー、綱引きなどの競技、体育系クラブ紹介と続き、本学伝統の『みこし』で締めくくられた。最後に、6年生が「ファイヤーストーム」を囲み学生生活最後の体育祭を、熱気の中で満喫した。



一方、楠葉祭は各クラブの工夫により、焼きそば・プルコギ、キャベツ焼き、おでん、たこ焼きなど19種類もの模擬店が賑やかに催され、学生・教職員を始め地域住民の方々も含めた交流の場となり、毎年ながら好評であった。また、展示では「解剖展」(ドイツ語研究会)、「シドニー展」を開催し、それぞれの活動を見学者や学生達に紹介していた。2号館では、歯科大学としての特色を生かした企画として、「無料歯科相談」や「ブラッシング指導」も実施され、近隣住民が多数参加した。

講堂では、学芸系クラブの邦楽部や管弦楽団部、軽

音楽部が日頃の練習の成果を発表した。また、午後から「大歯大的!ピフォー&アフター」が開催され、ゲストの「FUJIWARA」の司会により楽しいひとときが催された。楠葉祭最後の芸能人ステージでは、テレビ・ラジオで活躍中の若手漫才師3組によるトークショウが披露され、爆笑のうちに幕を閉じた。

### 平成17年度 自衛消防訓練

11月16日(水)午後4時から、楠葉学舎自衛消防訓練が枚方東消防署署員4名(消防車1台)の立会いのもと、今井消防隊長以下約100名の教職員の参加を得て行われた。

訓練は、4号館1階学内食堂厨房からの出火を想定して実施され、火災発生を連絡する通報訓練から始まり、各自担当の役割として避難誘導・警戒・搬出・工作・救助等訓練を行いながら速やかに副門前へ避難した。全員の避難を確認した後、場所を移して図書館3階から緩降機による避難訓練、水消火器と消火ホースを用いて初期消火を実演した。消防署から、消火器を使用するときは、まず「119番に電話してください」と大声で周囲に呼びかけ消火に当たるよう指導があり、実際にその様子が臨場感をもって再現された。

また、消防署からの講評では、近年多発する社会犯罪や来る東南海地震等有事の際の対応について日頃から十分に心掛けるよう、注意が喚起された。

最後に今井消防隊長から、本日訓練に真剣に取り組んだことに対する謝意と、訓練が現実役に役立つということが起こらないことを願いつつ、いざと言う時には今回の訓練を活かせるようにとの付言があった。



平成17年度 教職員懇親旅行

旅行委員長 辻 準之助

平成17年6月27日(月)、19名の旅行委員が一堂に会し、第1回旅行委員会が開催されました。その後も、数回委員会を開催し、懇親旅行の目的である「多くの方々のご参加を」を念頭に置き、日程、行き先について資料を持ち寄り、意見交換を重ねた結果、旅行計画は早期に決定することができました。

当初、3コースを準備しましたが、参加希望者が多く4コースとなり、観劇会に至っては2日にわたり開催することになりました。各コースとも、担当委員はがんばりと協力、誠実さを心にもってお世話するよう務めました。また、参加者の我慢強さ、マナーの良さにも助けられ、全日程を無事終了することができました。どうも、有難うございました。行き届かなかった点、不十分なこともあったかと思いますが、各委員の努力に免じてどうかお許しください。

各コースの楽しい紀行について「A：一泊旅行」は篠原光子、「B：日帰り旅行」は緒方智壽子、「C：食事会」は高井規安、「D：観劇会」は竹本和司の方々に、報告していただきます。

A 『お煎餅食べて、かにを食べに奥城崎温泉へ』

旅行委員：辻準之助、池永英彰、江頭勝、出水浩一、山本智恵、久保智子

—平成17年度教職員懇親一泊旅行に参加して—

薬理学講座・篠原光子

今年も恒例の教職員懇親旅行が、今井久夫学長、豊田絨一教授のご参加のもと12月3日、4日の両日に亘り、一泊二日で開催された。

総勢34名を乗せたバスは、午前9時定刻どおりに大阪歯科大学附属病院前を城崎へ向け出発した。最初に旅行委員長の辻準之助先生から「団体行動になるので、時間厳守をお願いします」との注意があった。続いて今井学長から「本来ならここに佐川寛典理事長が参加されるはずであるが、9月10日に体調をくずされ入院されているが少しずつ良くなられておられるようで、皆で一日も早い回復をお祈りしながら、この旅行を参加者全員で楽しみましょう」とのお言葉をいただいた。

バスは中国縦貫道・播但自動車道を走り、福知山インターをでて出石に着いた。名物の出石そばを堪能して、出発までの約1時間を城下町の散策で楽しんだ。まず、出石城旧三の丸大手門の一角にある「辰鼓楼」が目に入った。現在は時計台として利用されているが、1871年(明治4年)建築の見張り櫓で、当時は一時間ご



出石城にて(一泊旅行・12月4日)



とに太鼓で時刻を告げていたそう。古い酒蔵もあり落ち着いた歴史のある町で、「さすが但馬の小京都といわれるだけのことはあるなあ！」と納得した。

次いで日本一のおかき処、「播磨屋本店」へ立ち寄った。最初に工場見学があり、二階からガラス越しに一階のおかきの作られる様子が観察できた。蒸した米が運ばれ機械に取り付けられた数本の杵でつかれ丸まった餅は、ベルトに乗り運ばれ、人の手で押し餅にされる。それが薄く切られ、焼き乾燥、砂糖醤油で味付け、その繰り返しで、最後に包装され箱詰めされてゆく。押し餅にする工程以外は全てオートメーションで、ベルトコンベアーに乗ってスムーズに運ばれてゆく。見事なものと感じた。おかき・お茶のサービスがあり、1階の売り場は大変繁盛していた。買った人たちは間違わないよう荷札に名前を書き、紙袋に取り付けてバスのトランクに大事そうにしまっていた。出発時にはバスガイドさんが、「トランクにはおかき屋さんができるくらいのおかきが入っています！」と話され、皆で大笑いした。

そこをでると、今晚の宿泊先の城崎温泉に向けひたすら走り、16時30分に奥城崎シーサイドホテルに到着した。玄関先で記念撮影をすませ、18時から夕食との説明を受け、それまで自由行動になった。海岸淵に建てられたホテルの部屋からは海岸が一望できたが、海は白波がたち、荒れていた。天気予報では、今夕か

ら明日にかけ寒波が到来することであった。夕食は、「やっぱり蟹が好き、城崎温泉と舟屋遊覧船巡り」のキャッチフレーズどおり、蟹の刺身に始まり雑炊まで蟹づくしであった。沢山の種類の日本酒(久保田、紅天女など)、焼酎、ビールなどをいただき、飲みきれなかったものを持参して、ホテル内のカラオケへ繰り出し、楽しく歌ってその日はお開きとなった。

翌朝は、朝食を済ませた後、砂浜を散策して貝殻を集め9時にホテルを出発した。本来ならば伊根湾巡りで舟屋を見学する予定であったが、波が荒いので中止となり、陸前の松島、安芸の宮島と並んで日本三景の一つに挙げられる、天橋立へと向けてバスは走りだした。昼前に到着し、「元伊勢籠神社」(もといせこのじんじゃ)をお参りした。社殿は伊勢神宮正殿と同じ唯一神明造りで、高欄上の五色の座玉(すえたま)は非常に珍しく伊勢神宮とこの神社だけ、また、名勝天橋立は昔は神社の境内であったとのこと。社頭の狛犬二基は鎌倉時代の作で重要文化財に指定されている。歴代宮司家である海部氏(現在82代目)が所蔵する「海部氏系図」は、現存最古のもので国宝に指定されている。ここで張子の「姫だるま」(一つだけ願いごとを紙に書き、だるまの底にあいている穴から中に入れて置くと、願いが叶うという)を、長女、次女そして自分用にと巫女さんから購入した。只今一つだけの願いごとを思案中である。

次に、ケーブルカーに乗って「股のぞき」で有名な「傘松公園」へ行った。これは神代の昔、天にあった伊射奈岐(伊邪那岐)の大神が、地上の籠宮に居られた伊射奈美(伊邪那美)のもとに通うため、天から長い梯子を懸けたが、これが一夜のうちに倒れてできたのが、天橋立であると伝えられている。股の間から天橋立を見ると、海が空に見え、空中に浮かび天に懸かる橋のように見える。天橋立は、宮津湾と内海の阿蘇海を南北に隔てる幅20～170m、全長約3.6kmの細長い砂嘴に樹齢100年の黒松5,000本が生えている。昨年10月の台風で200本近くの松が倒れたそうだ。集合時間に気づき、慌ててリフトに乗り、風に吹かれながらも一度、束の間の天橋立の絶景を楽しんだ。そのあと、海鮮づくしの昼食をいただき、帰路に着いた。

今年も楽しい思い出の一ページを飾ることができました。旅行委員会委員長はじめ旅行委員の方々のお世話になり、本当に有り難うございました。心より厚く御礼申し上げます。

### B『六甲で遊んで有馬温泉でお昼食べましょ』

旅行委員：緒方智壽子(文責)、井上雅裕、合田征司、高橋和代、石床純子

9月10日(土)に「アサヒビール西宮工場見学」と「有馬温泉で昼食会」の日帰り旅行が22名の参加で催され

ました。

台風シーズンの中、お天気の心配をよそに当日は晴天に恵まれ、また遅刻者もなく、定刻どおりバスは歯科大前を出発しました。アサヒビール西宮工場までは、30分ほどで到着しました。館内は完全予約制で、当日、工場はお休みのため、機械が動くのを見ることが出来なかったのが残念でしたが、ビールの原料のお話から始まり、ビールの製造工程をわかり易く説明していただきました。また、試飲室ではおつまみもついた「ビールの飲み放題」があり、おいしいビールの入れ方も教えていただきました。

11時にアサヒビール西宮工場を出発し、有馬温泉の「兵衛向陽閣」へ向かいました。昼食会では、佐川理事長ならびに今井学長からご挨拶をいただき、自己紹介などをしながら和食中心の豪華な食事に舌鼓をうち、ゆったりとした時間を過ごしました。出発の時間までは、温泉につかっていた方、有馬温泉を散策される方、それぞれ自由に時間を楽しまれました。ちょうど「有馬玩具博物館」が100周年の記念キャンペーンをしており半額で入館できましたが、外国のおもちゃなど興味深いものが展示されており、少し得をした気分でした。また、おみやげには有馬温泉名物の炭酸せんべいとワインと佃煮を選びました。

バスは天満橋に定刻4時に到着し、解散しました。



美味しいビールでホッとしたひととき(日帰り旅行・9月10日)

<反省>

今回の日帰り旅行は予想より参加人数が少なく、その原因が旅行内容によるものなのか、日程の問題であったのか、検討する必要があるのではないかと思います。旅行の内容としましては、人数の割に宴会場が大きすぎ、少々落ち着かない雰囲気であったかと思われました。また、お料理は大変に美味しく、満足できる内容でしたが、時間を忘れてお料理をゆっくり食べていると後の自由時間が少なくなり、出発までばたばたしたように思いました。

C 『たまには豪華な懐石たべまひよか』

—初冬の古都で豪華な京料理を堪能しました—

旅行委員：高井規安(文責)、鶴野祥子、石原亜希子、渡辺章子

「お昼ご飯に、たまには豪華な懐石たべまひよか」という本年度の教職員懇親旅行委員会の呼びかけに、58人の皆さんが「そらよろしがな！」ということで、師走の10日、京都に集まりました。場所は四条大橋の西詰にある「ちもと」という料亭です。ここのお店は、それはそれは古くからあるそうで、なんと創業以来三百年、建物は百三十年前に造られたということやそうです。玄関なんかもいかにもひっそりとした一流料亭という風情で、ペットボトルを再生した上着を着ていった私はちょっと気後れしてしまいました。

この日は、よう晴れて京都の冬にしては暖かい日で

なによりでした。正午の少し前から、皆さんが三々五々お腹をすかせて集まり、まずは待合の席に通されました。部屋は鴨川の河原に突き出るように建てられていますので、大きな窓越しに四条大橋の立派な擬宝珠や川面に群がる白い鳥(あれが都鳥ですかなあ?)がすぐ近くに見えますし、川の向う岸には南座の瓦屋根、その背後には紅葉した東山と、なんともええ感じです。お茶をすすりながら全員が揃うのを待ち、正午きっかりに八十八畳のりっぱな大広間へ移りました。全員で記念写真を撮影したあと、西川教授が挨拶、次いで川合教授に乾杯の音頭をとってもらって、いよいよ料理が出てきました。やっぱり、さすがに京懐石ということで、一品々々が凝った器にかたち良く盛り付けられて、そら見事なもんです。珍しい食材やら、京都ならではの京野菜を使こうた料理が次々と運ばれてきます。見た目もさることながら、味付けも上品そのもので、家でいつも食べてるモンとはえらい違いでしたなあ(遠くを見る目つき)。隣にすわってはったある先生も、「こらうまい!どんぶり鉢にいっぱい食いたい」とつぶやいてはりました。

昼間ということでしたが酒もすこし聞き召し、3時前にお開きということになりました。皆さん少し頬っぺを赤くして四条通りを東西に分かれてお家に帰っていかはりました。楽しい贅沢なひとときを過ごさせていただきましたことを感謝しております。



皆さん、少し緊張気味



創業三百年の京懐石のお味は…

## D『劇団四季《マンマミーア》とお食事会』

旅行委員：竹本和司(文責)、川端路子、吉村里美、野田真弥子

本年度の「観劇・会食コース」はアンケートで、一番多数の方の参加希望をいただきました。そのご希望にお応えするため、追加する形で2回に分けての催しとなりました。両コースとも観劇は「大阪四季劇場」の柿落し公演「マンマ・ミーア」です。大阪駅前のハービスプラザ・エントにできた、新しい劇場です。

12月10日(土)のコースでは54名の参加者があり、会食には49名の方が参加されました。「アバ」のあとは「アブ…?」、ホテル・グランヴィア大阪19階にある「パブレストラン・アブ」でコース料理をいただきました。ご挨拶を二川修治先生、乾杯のご発声を魚部健一先生にお願いし、キラキラと輝く大阪の夜景となった閉宴の時間まで過ごしていただきました。

12月11日(日)のコースでは105名の参加者があり、会食には78名の方が参加されました。会場はホテル「ザ・リッツ・カールトン」～純ヨーロッパ調で重厚な、リッチな気分が味わえるところです。今井学長が所用で少し遅られるため、副学長の川添堯彬先生にご挨拶と乾杯のご発声をいただき開宴しました。宴の途中、かけつけられた今井久夫学長からもご挨拶をいただき、中村正明先生に締め挨拶をしていただきました。

ミュージカルといえば音楽ですが、観劇のステージに使われたのは70年代に大ヒットした「アバ」の22曲です。「体が勝手にリズムをとって動き出す。いや楽しかったです」「1階席のスタンディング・オベーション、中に入りたかった」などなど、劇団四季のCMになりそうな感想を、そこかしこで、耳にしました。

参加された皆様の「楽しかった。良かった」の一言に、委員全員、肩の荷が下りた思いがしました。他のコースの担当をし、このコースのお手伝いもしていた皆様に心からお礼申し上げます。

### 『総括』

最初の日帰り旅行のあと、佐川寛典理事長がご病気になられ、私自身、非常に強いショックを覚えました。しかし、今井久夫学長から心温まるお言葉と励ましを賜り、その後の日程も予定通り開催した結果、何とか成功裡に終わることができました。

後日、参加者からは「ビールがうまかった」「あの風景、絵に描いたようや」「歌も上手で涙が出た。感動した」「料理が美味しかった」…などの言葉をいただきました。私へのメールにも「旅行委員のおかげで、すごく良い思い出になりました」と書かれ、キャビネットには「楽しかった」とのメモがありました。私自身も、日頃、面識が薄く話し合う機会の少ない方々とも、ふざけ合い、冗談を言い、写真を撮り合うなど互いに親睦を深め、楽しい一日を過ごさせていただきました。

この懇親旅行では、佐川寛典理事長をはじめたくさんの方々から温かいメッセージ、励まし等のご支援をいただきました。心より感謝いたしております。特に、今井久夫学長には公務でお忙しい中、その合間を縫ってすべてのコースに参加して下さい、城崎では響きのある、渋い、節をご披露して下さいました。本当に有難うございました。

懇親旅行、そのすべてのコースが無事終わり、ホッとすると同時に、私には「よかったな」という気持ちが湧いてまいりました。各コースともスタッフに対する参加者のマナーの良さに、評判も上々でした。車中でのガイド嬢との会話もほほえましく、また運転手、添乗員に対する接し方も節度のあるものでした。節度のある方々と、この場所でご一緒に働いている自分が幸せであると同時にうれしくもあり、誇りでもあったと感じました。

今回の企画を担当してくださいました東急観光中之島支店の岸本敏志さんをはじめ、お世話いただいたすべての方々に感謝いたします。

最後になりましたが、旅行委員の皆様、ご苦勞様でした。有難うございました。

(旅行委員長 辻 準之助)



辻委員長を中央に旅行委員会のスタッフ（一部）

### 牧野学舎本館『登録有形文化財』へ 文部科学大臣から正式に通知

去る6月17日文化審議会から『登録有形文化財』の答申をされていた本学の牧野学舎本館が、11月10日付けで正式に文化財登録原簿に登録された。

12月5日付け文部科学大臣小坂憲次名で「文化財保護法第57条第1項の規定により、平成17年11月10日付けをもって文化財登録原簿に登録したので通知します」との文書が文部科学省より本学に届いた。本学としても、牧野学舎本館および付近の景観の保存・維持に努めなければならない。

### 平成17年度 教職員忘年慰労会

仕事納めとなる12月28日(水)午後3時から、教職員忘年慰労会が天満橋学舎本館内のレストラン「プラザ14」で開かれ、240名近くの教職員が参集した。

はじめに、今井理事長職務代行から開宴の挨拶があり、一年を振り返りそれぞれの持場で本学に尽くされた各位に対し労いのことばが掛けられた。続いて川添理事の音頭で乾杯が行われ、暫し和やかな歓談の時間となると、思い思いに飲み物と軽食を楽しみながら互いの労を慰め、親交を深める姿が各所で見られた。

その後、お待兼ねの抽選会が始まり、バラエティ豊かに取り揃った賞品が22人の幸運な当選者に、川添・中村・井上各理事から手渡されると、会場の雰囲気はさらに盛り上がった。最後に、中村理事から閉会のことばがあり、年の瀬は恙無く締め括られた。



### 大阪歯科学会第500回例会記念大会

大阪歯科学会例会の第500回目を記念する大会が、平成17年10月15日(土)午後1時30分から講堂において開催され、元京都大学総長の井村裕夫京都大学名誉教授が「これからの健康科学」と題して記念講演を行った。この記念大会は、平成17年度大阪歯科学会大会ならびに大阪歯科大学同窓会学術研修会を兼ねており、また初めて一般にも公開され、本学教職員、大学院生・学生、同窓生とともに雨天にもかかわらず、100名を超える一般市民も参加した。

500回記念大会は、堂前尚親大阪歯科学会会長の開会の言葉、今井久夫学長の挨拶のあと、井村裕夫先生の記念講演が行われた。井村先生は「20世紀の100年間に日本人の平均寿命はおよそ2倍に延びたが、一方において高齢者の病気・健康ということが医療費や介護費用の増加だけでなく、家族の負担という意味でも大きな問題となっている。高齢者に多い、がん、脳血管障害、心臓疾患の3大疾患うち、脳血管障害と心臓病はともに血管の病気であり、その基礎の病的な状態として、生活習慣に起因する高血圧、糖尿病、高脂血症などがあり、最近では代謝症候群という概念が確立され、血管病変との関係が注目されている。近年、ゲノムの研究が進んでいるが、まだ病気の遺伝子はごく一部しか解明されておらず、病気を予防するには生活習慣の改善、すなわち食事・運動に留意することが基本となる。また、精神的な側面、生き甲斐を持ち、周囲の人々や社会と関係を持ちながら生活することが、健康を守るためにも必要である」と、長い人生を良く生きるためには身体、精神両面において健康に注意することが重要であると話された。



井村裕夫京都大学名誉教授の記念講演



最後に、この記念大会の共催者である同窓会を代表して、三谷卓大阪歯科大学同窓会会長代理の閉会の言葉があり、大阪歯科学会第500回例会記念大会は無事終了した。

＜大阪歯科学会設立の頃あれこれ＞

大阪歯科学会は、1931(昭和6)年6月14日に設立された。ところが、その機関誌である「歯科医学」は前年の11月20日にすでに創刊されていた。その訳は、「歯科医学」が校友会(同窓会)から発行されていたからである。また、最初の学術講演会も校友会の主催で1930年3月に開催されている。

ことの経緯はこうである。1929年11月、本学は「牧野学舎」竣工を祝う記念行事を開催していた。全国から参集した300余名の同窓を前に、当時の朝比奈藤太郎校長(写真)は学校と校友会に対する抱負を述べたあと、

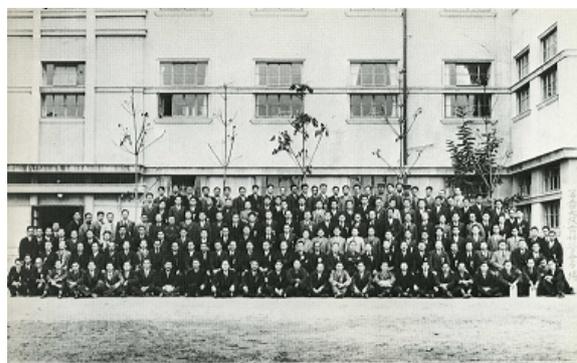


校友会に課せられた事業として①月刊の学術雑誌の発行、②本校を中心とする臨床学術学会の設立、この2点の協力を求めた。そして同時に開催された校友会総会において朝比奈校長は校友会会長

に選出された。1年後に待望の「歯科医学」第1巻第1号が、校友会発行の学術雑誌として創刊された。

もうひとつの課題である学会の設立については、1931年6月6日の校友会役員会において朝比奈校友会会長は「会の性質上、あるいは一般的にみて本校を中心とした歯科学会を別個に組織する」ことを提案し、6月14日の校友会臨時総会において大阪歯科学会設立が承認され、引き続き行われた設立総会において提案された会則を全員一致で可決し、「大阪歯

科学会」が誕生することになった。初代会長には朝比奈藤太郎が選出された。同年11月8日、大阪歯科学会が設立されて第1回目(記録上は第2回)の大阪歯科学会大会が、400名におよぶ参加者のもと牧野学舎において開催され、2つの特別講演と18の研究発表が行われた。



第1回大阪歯科学会大会(1931年・牧野学舎)

大阪歯科学会例会は、1932年2月11日に行われた例会が記録上最初のものであり、特別講演と9題の会員発表が行われている。翌年には、例会が4回開催されている。

さて、校友会から発行されていた「歯科医学」であるが、大阪歯科学会設立後も引き続き、校友会から年2回、会員あてに無料で配布されていた。ところが、会員の増加とともに費用の増大が問題となり、また業績発表の増加にともない発行回数を増やすことが必要となってきた。校友会および学会の役員会で調査・検討した結果、第10巻(1938年)から歯科医学は校友会の手を離れ、大阪歯科学会の機関誌となり、年6回発行するとともに有料化することになった。また、例会も隔月に開催することに会則が改正された。

### 第1回人権講演会開催

人権啓発推進委員会では、本学の人権意識を高めるため、平成17年度第1回人権講演会を11月29日(火)楠葉学舎2号館第5大講義室において開催した。講師として、桃山学院大学文学部教授の寺木伸明先生をお招きし、「歴史の流れを継承し、新たな時代に向けて」というテーマで講演していただいた。日本独特の部落問題を歴史的な視点から解説し、またインドのカースト制度や現在の国際的な人権の動きについても説明された。

第2回人権講演会は、2月27日(月)に天満橋学舎において実施される。



講師の寺木先生と熱心に聞き入る参加者

また、人権啓発推進委員会では人権週間(12月4日～10日)に合わせて、人権啓発標語の学内募集をしました。教職員および学生から19点の応募があり、最優秀作には解剖学講座諏訪先生の『人権は 生まれながらに持っている みんなで考え ふれあう心』が選ばれた。

#### <人権啓発推進委員会>

平成16年11月、教職員の人権意識を涵養し、人権問題の啓発・教育活動の推進を目的に設置された。委員長は、今井久夫学長、事務局は総務課人権室。

第1回人権啓発標語入選作品	
表彰入選者	作品
最優秀作 諏訪 文彦	人権は 生まれながらに持っている みんなで考え ふれあう心
優秀作 松村 誠一	高めよう 差別を許さぬ 皆の声 差別と向かおう 行動の輪
優秀作 種坂 隆志	人権は 人種、性別、国を越え ひろがる 豊かな共生社会
佳作 吉川 美弘	ねえ 聞いて 僕もみんなと 同じでしょ
佳作 今井 久夫	人心は 人権無視では得られない 人権重視を発信しよう 職場からまた家庭から
佳作 上田 実	健全な 職場に咲いた大輪は 一人ひとりの心から

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

### 第2回人権講演会のご案内

日時：平成18年2月27日(月)  
午後3時30分から午後5時  
場所：天満橋学舎西館5階臨床講義室  
講師：桑野里美さん(21世紀職業財団講師)  
テーマ：「セクシャルハラスメント」  
①ビデオ：30分  
「ストップ!職場のセクシャルハラスメント」  
②講演：60分  
「職場のセクシャルハラスメント防止のために」  
多くの教職員の方々に参加いただきますよう  
ご案内いたします。

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

人権啓発標語最優秀作

人権は 生まれながらに  
持っている  
みんなで考え ふれあう心

人 事

称号授与

名誉学長 佐川 寛典  
H. 17. 12. 28付

昇 任

歯科保存学講座 教授 山本 一世  
H. 17. 10. 1付

英語学教室 助教授 藤田 淳一  
H. 17. 11. 1付

教員再任用

口腔インプラント科 病院助手 永田裕久美  
H. 17. 11. 1付

教員採用

口腔衛生学講座 助手 土居 貴士  
H. 17. 11. 1付

名称変更

耳鼻咽喉科学講座 助教授 湊川 徹  
講師 島津 薫  
講師 毛利 大介  
助手 青木 秀哲  
助手 城山 明宏  
以上 H. 17. 11. 24付

職員採用

総務課人権室 事務職員 種坂 隆志  
H. 17. 10. 1付

依願退職者

細菌学講座 助手 住田 容子  
H. 17. 12. 31付

委 嘱

嘱託 獣医師 吉田 依里子  
H. 17. 11. 1付

平成18年度予算委員会委員 川添 堯彬  
中村 正明  
以上 H. 17. 12. 6付

あとがき

—余談—

1931, 1921, 1911…さて何でしょうか。

2007年10月に、大阪大学と大阪外国語大学が統合することになると、12月21日の某紙の夕刊に掲載されていた。1931とは、大阪大学の前身である大阪帝国大学が創設された年、さらにそれよりも10年早く大阪外国語大学は1921年に大阪外国語学校として創立されている。国立大学の法人化により、国立大学といえどもこれまでのように財政面で全面的に国に依存し、世間とは隔絶した集団として存在することが許されない状況になってきている。それぞれの大学が自助努力により、自らの大学の方針を定め、将来を決定していかなければならなくなった。いわば、何でも許された子供の存在から、青年期を経ずに一気にすべてにおいて責任を負わされる大人への変身を余儀なくされたわけである。

大阪外国語大学という、司馬遼太郎や陳舜臣という作家を輩出した名門校の名前が消えていくのは寂しい限りだが、統合後は大阪大学「外国語学部」として存続していくことになる。

さて、残る1911であるが、自慢するわけではないが、本学の創立年である。大阪大学よりも20年も早く、大阪外国語大学よりも10年も早く本学は創立されている。大学としての規模、知名度において両校には及ばないが、歴史において本学は両校にも勝るとも劣らない伝統をもっている。何と言ってもあと5年余りで百歳を迎えることになる。

ところが、である。国立大学が国に財政を依存してきたように、本学も財政の主要な部分を資産運用収入、すなわち銀行の利子収入に依存してきたことがわかった。周知のように、世はゼロ金利時代であり、依存すべき対象はすでに存在しない。全収入の30%を占めていた利子収入が10分の1以下になった結果、ここ10年間の本学の収入は80%に減少している。それにもか

## 阪神“赤星”選手寄贈の車椅子

### 13階ナースステーションで大活躍

阪神の赤星選手からプレゼントされたサイン入りの車椅子が、病院13階のナースステーションに設置され、赤星選手同様に大活躍している。

赤星選手は平成15年から自らの盗塁数に応じ、全国の施設・病院に車椅子をプレゼントしており、本院も「虎ファン」の看護師の森本さんが応募したところ、12月2日甲子園で行われた抽選会で見事当選したものです。



“虎”ファンの井上宏病院長と看護師の森本さん

かわらず支出は増加し続けているため、本学の収入と支出は完全にアンバランスになっている。現在の収入という「現実」から逃避し、支出は過去の「ユートピア」を追い求めている。

では、どうすればよいか。利子収入に依存しない財務構造に転換すればよい。しかし、あまりにも長い間、利子収入の恩恵の下にあったため、無意識のうちに固定観念や既得権益を生み出してきている。これらを、現在の収支状況が示す事実に基づき、それを基準とし

て転換するということは並大抵の作業ではない。何よりもまず、バブル化した財務体質を改善しなければならない。支出のあらゆる部分で、利子太りになってしまっているからだ。教職員一人ひとりも、ことの善悪は別として、利子太りの環境下に在職してきたわけで、これまでの固定観念を捨て、意識を変革するとともに自らをダイエットする必要がある。

本学の存続には、教職員の協力が不可欠である。

大阪歯科大学広報 第140号

発行日 平成17年12月28日

編集発行 広報委員会

〒573-1121 枚方市楠葉花園町8-1

電話 072-864-3111